

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, August 2012

課長：佐藤 裕久 *H. Sato*

幹事：下元 繁男 *S. Shimomoto*

○ 8月の状況 (佐藤)

☆ C/2012 CH₁₇ (MOSS)

彗星課メーリングリスト (oaa-comet ML、以下同じ。)等に寄せられた報告は次のとおり。

8月13日 00:12、海外の彗星観測者メーリングリスト (comets-ml) にフランスの François Kugel から C/2012 CH₁₇ (MOSS) のコマが非常に拡散し、中央集光が見えない旨の投稿があった。

これに対して、同日 22:02、comets-ml に吉田誠一氏 (神奈川県横浜市) は、6月から幾分拡散し、7月以降には完全拡散し中央集光はなくなったとの返事をし、オーストリアの Michael Jäger と佐藤英貴氏 (東京都大田区) の画像を紹介した。

これに先立って、7月20日 00:29、佐藤英貴氏から、彗星課メーリングリスト (oaa-comet ML、以下同じ。) に「そろそろ西に低くなってきた C/2012 CH₁₇ (MOSS) を2月以来久しぶりに観測したところ、非常に拡散し、大きく広がった姿に変貌していました。7月13日に核光度17等で観測されていますが、現在は19等以下で、130度の方向に広がっています。昨年9月に観測した C/2010 X1 や、2010年3月の C/2009 O2、今年2月20日頃の C/2012 C2 とよく似た姿です。夕空で低いですが、数日以内に再度観測してみます」と C/2012 CH₁₇ (MOSS) の崩壊の可能性を示唆した投稿があった。

8月18日 12:39、同じく佐藤英貴氏から、「C/2012 CH₁₇ は大きく拡がりましたが、先月

と比べて面光度はほぼ変わりません。そのため、全光度はかなり明るく測定されます。同じような彗星に C/2009 O2 や C/2011 M1 がありました。ともに眼視では明るく観測された彗星たちです。しかし、核光度は20等以下で、位置測定はもはや意味をなさないものになりつつあります」とのコメントがあった。

19日 03:18、筆者より「…C/2012 CH17 は軌道からバラツキが大きくなりました。赤緯に対しては+側にズレが大きくなってきました」とコメントした。

その後、27日の François Kugel による観測を最後に今のところ他に観測はない。

☆ 185P/Petrew

19日 14:30、吉田誠一氏から「群馬県・北軽井沢での彗星観測です。…昼間は晴れていても、朝晩は曇ることが多いです。夜中すぎのわずかな時間だけ快晴に恵まれました」とのコメントに続き眼視光度観測報告があった。他の彗星とともに、185P は、「2001年の発見時以来、11年ぶりの再会です。明るいですが、集光はやや弱いです」とのことであった。

9月9日 21:38、張替憲氏 (千葉県船橋市) から「5月から8月中旬までは夜はほとんど晴れ間がなく、8月下旬になってようやく梅雨明け直後のような星空が連日連夜続きました。3ヶ月ぶりの光度観測です。185P は弱い集光があり約2分の青いコマが広がっています。冬の

天の川の中を東進しており、8月17日未明は恒星と重なり測光出来ませんでした。約3度東に強烈な光を放つ金星と一緒に移動しており画像はややかぶり気味となりました。RAW画像のG画像のみで測光、観測地はすべて千葉県九十九里海岸です」とのコメントと光度観測報告があった。

○ 8月に検出・発見された彗星

☆ P/2006 U5 = 2012 P1 (Christensen) 8月15.93日 UT、Artyom Novichonok (測定者) と Otabek Burhonov (観測者) は、ウズベキスタン、Majdanak 天文台の 1.5-m f/8 反射の CCD 画像から全光度 21.4 等の P/2006 U5 を検出した。この彗星は、8月15日は小さなコマと p. a. 242° に 5" の短い尾が見え、28日には、3".5 のコマと p. a. 260° に 4" の短く広がった尾を確認した (CBET 3214, 2012 September 3)。

☆ C/2012 Q1 (Kowalski) 8月28.19日 UT、Richard A. Kowalski は、Mt Lemmon の 1.5-m 反射望遠鏡で得た画像から、微かで丸いコマが、少し拡散した核集光からおおよそ 20" に広がった 18.7 等の彗星を発見した。

小惑星センターの NEOCP webpage に公表後、R. Holmes (Ashmore, イリノイ州; 0.61-mf/4 アストログラフ: S. Foglia, L. Buzzi と T. Vorobjov が測定) ら位置観測者によって彗星状として観測された (CBET 3215, 3216, 2012 September 4)。

○ 他の明るい彗星

他の明るい彗星は、96P/Mchholz (写真 a)、C/2011 L4 (PANSTARRS)、C/2010 S1 (LINEAR)、C/2006 S3 (LONEOS)、C/2011 A3 (Gibbs)、C/2012 K5 (LINEAR) (写真 b)、C/2012 J1 (Catalina) 等であった。

● 光度等観測報告

C/2010 S1 (LINEAR)

2012	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Aug.	19.68	13.8	0.8'	6	-	-	-	-	144×40-cmL	吉田誠一	①

C/2011 F1 (LINEAR)

2012	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Aug.	18.46	10.6	2.4'	3	-	-	-	-	75×40-cmL	吉田誠一	②

P/2012 NJ (La Sagra)

2012	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Aug.	19.69	15.0	-	9	-	-	-	-	257×40-cmL	吉田誠一	③

185P/Petrew

2012	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Aug.	18.77	10.2	1.7'	4	-	-	3/5	4/5	EOSX3*	張替憲	④
	19.75	10.1	3.6	4	-	-	-	-	75×40-cmL	吉田誠一	⑤

185P/Petriew (続き)

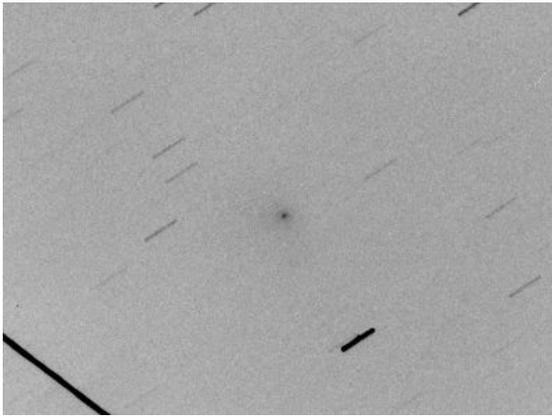
2012	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Aug.	20.77	10.7	2.0'	4	-	-	4/5	4/5	EOSX3*	張替憲	④
	22.77	10.8	1.5	4	-	-	5/5	4/5	EOSX3*	張替憲	⑥
	24.78	10.3	1.5	4	-	-	4/5	4/5	EOSX3*	張替憲	⑥
	27.78	11.0	1.9	3	-	-	3/5	3/5	EOSX3*	張替憲	⑥

260P/McNaught

2012	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Aug.	19.70	13.0	1.6'	6	-	-	-	-	75×40-cmL	吉田誠一	⑦

*200-mm f/2.8 lens

- ① とてもコンパクトにまとまっている。明るく集光が強いので見やすい ② 集光は弱く感じる
 ③ 限界に近い微光星。30分間で移動を確認 ④ 50秒露出 ⑤ 集光はやや弱い
 ⑥ 45秒露出 ⑦ 驚くほど明るく、見やすい。印象では、12等くらいに思える

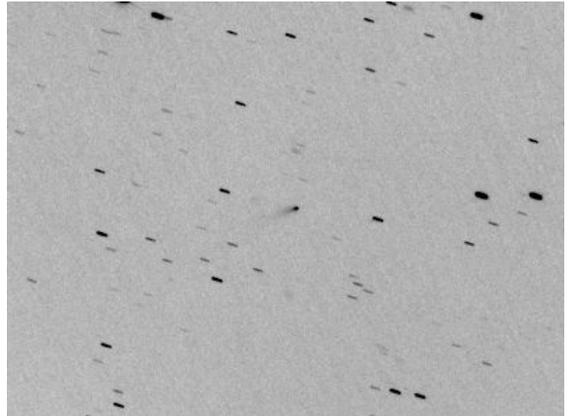


(写真 a) 96P/Machholz

2012, 08, 16 20h31.0m-49.3m (JST)

exp. 60s×14 TOA130 + CCD

三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) C/2012 K5 (LINEAR)

2012, 08, 16 21h30.0m-50.5m (JST)

exp. 60s×14 TOA130 + CCD

三重県伊賀市上野 田中利彦氏